

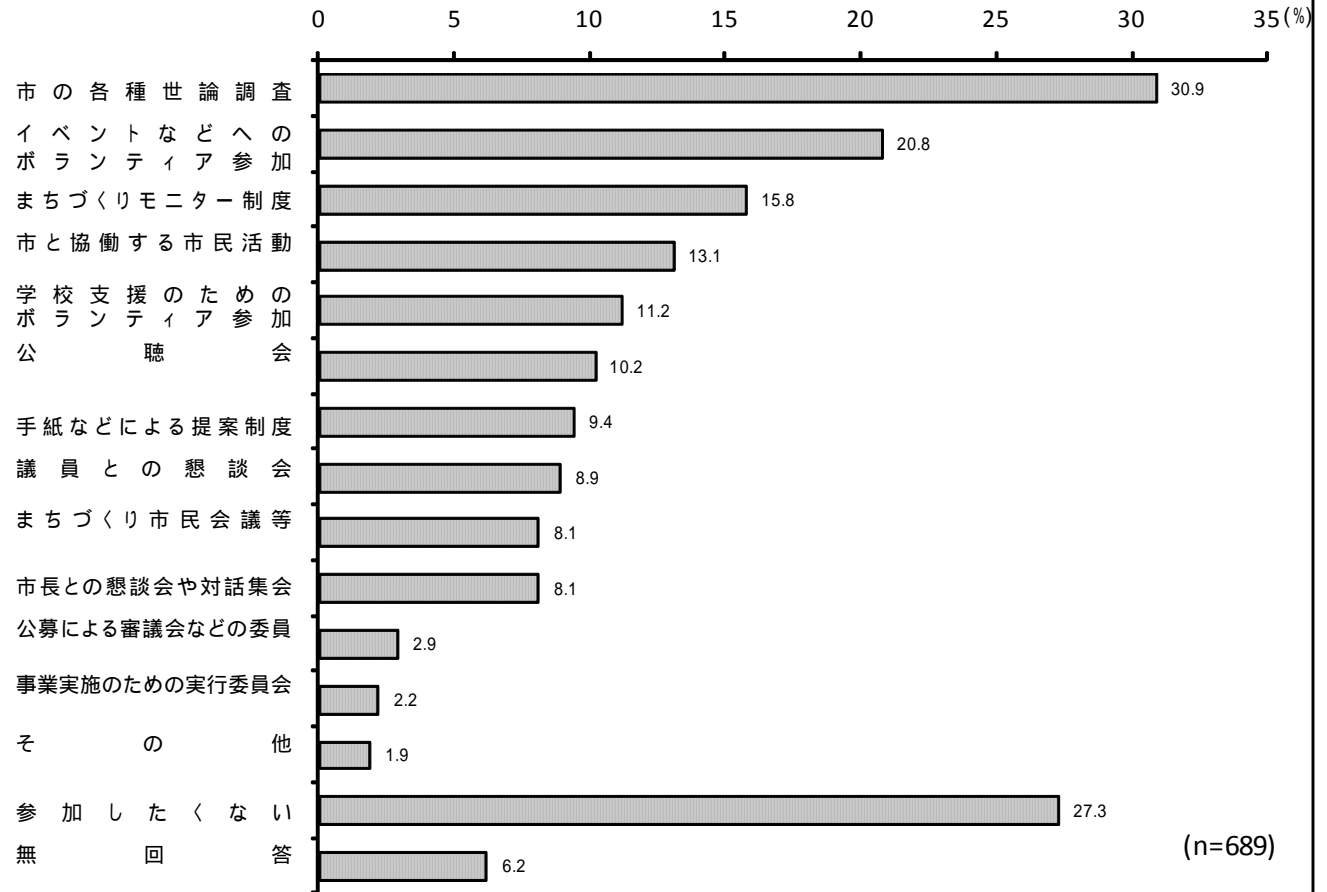
14. 市民と市政

(1) 市政への市民参加

「市の各種世論調査」が3割弱

問40 「市政への市民参加」ということが言われていますが、あなたはどのような方法で市政に参加したいと思いますか。次の中から3つまで選んでください。

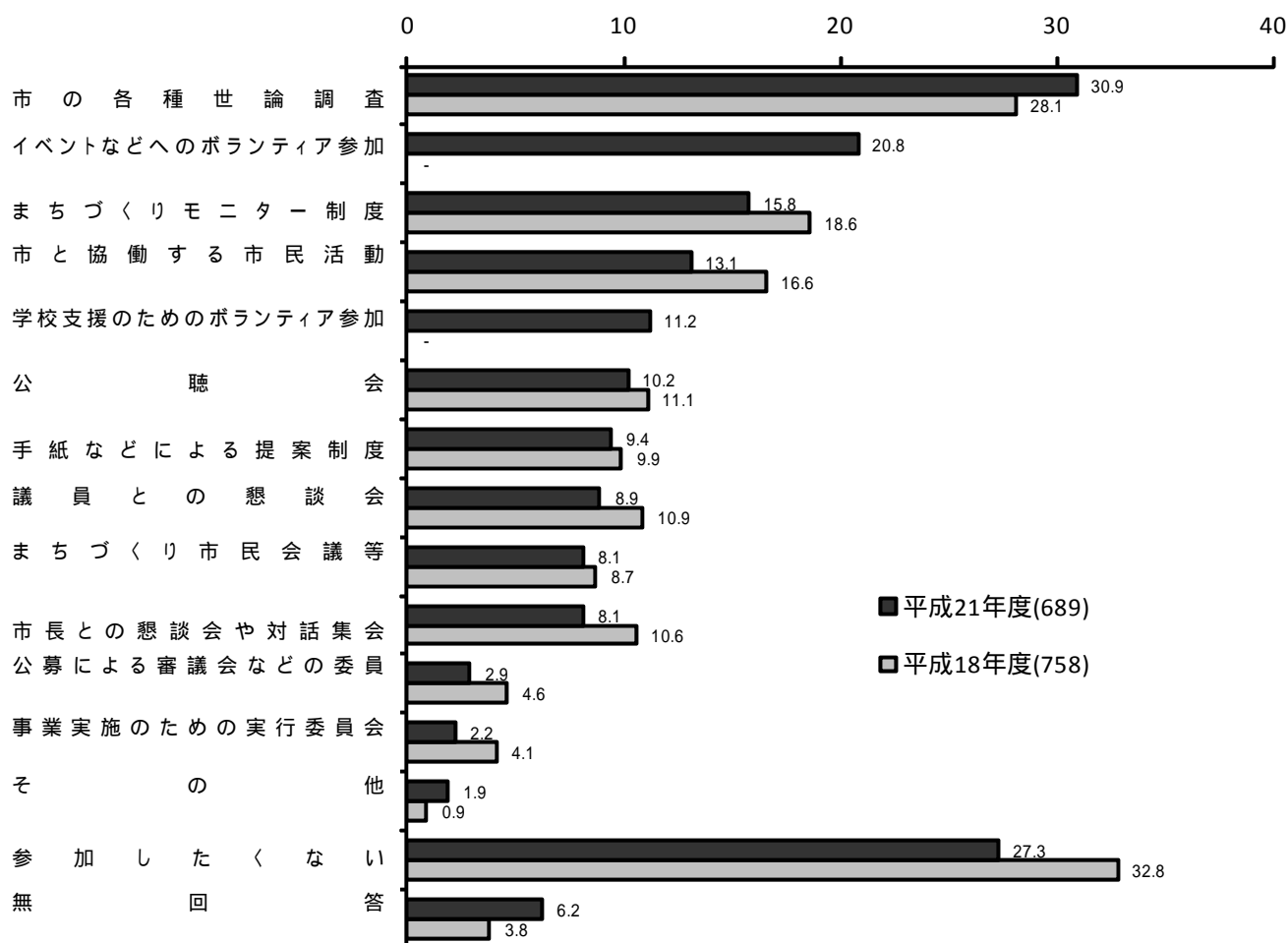
<図表14-1> 市政への市民参加



市政への市民参加について尋ねたところ、「市の各種世論調査」(30.9%)の割合が最も高く約3割となっている。「イベントなどへのボランティア参加」(20.8%)は約2割、「まちづくりモニター制度」(15.8%)、「市と協働する市民活動」(13.1%)、「学校支援のためのボランティア参加」(11.2%)、「公聴会」(10.2%)で1割を超えている。また、「参加したくない」(27.3%)の割合が3割弱と高くなっている。(図表14-1)

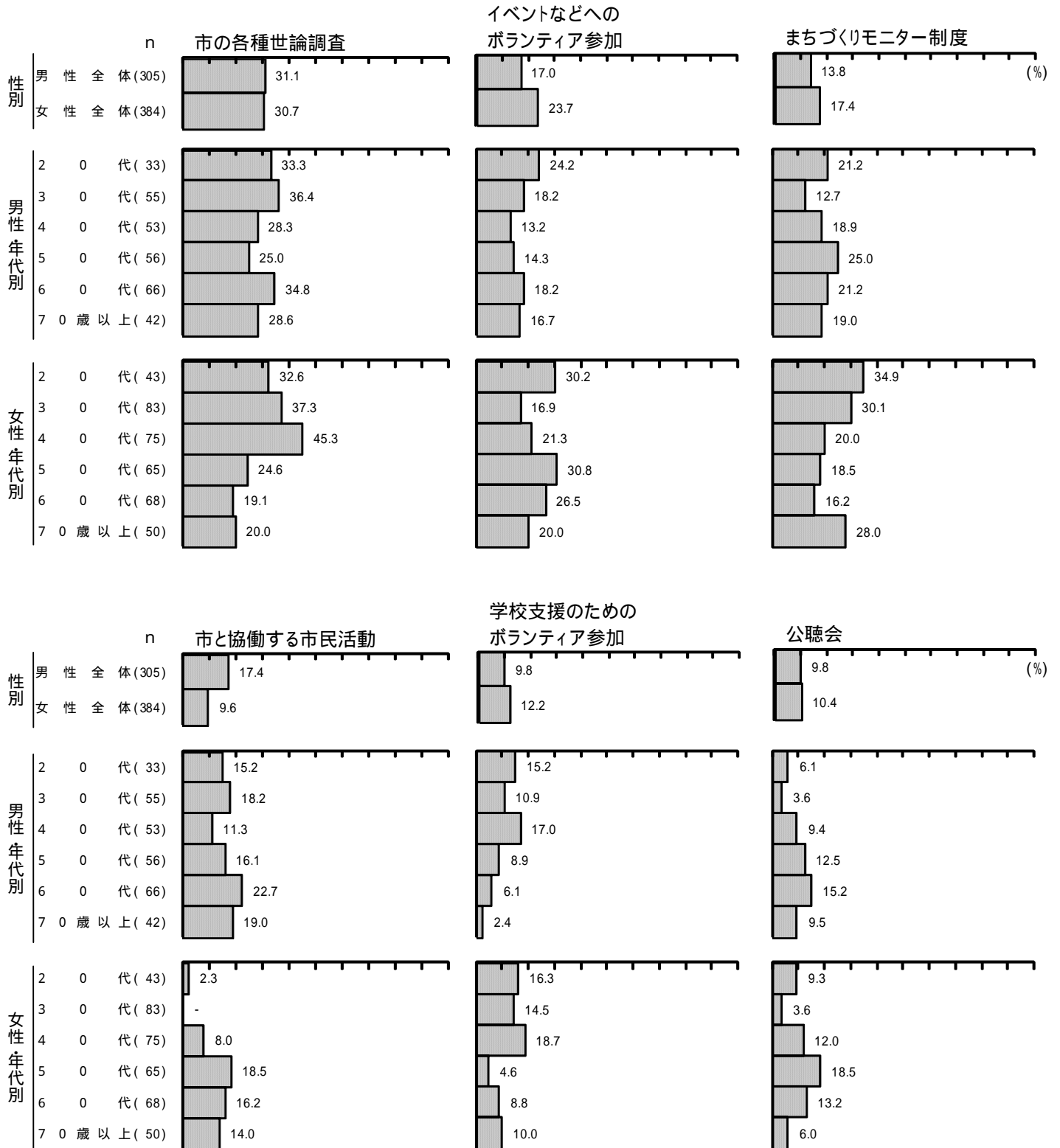
前回の調査結果と比較すると、「参加したくない」は前回より5ポイントほど減少している。他の項目は大きな差異はみられない。「市民活動」については、今回調査では「市と協働する市民活動」、前回調査では「環境保護活動などの市民活動」と選択肢の表現が異なっており、「イベントなどへのボランティア参加」と、「学校支援のためのボランティア活動」は前回調査での選択肢には含まれていなかった。(図表14-2)

<図表14-2> 市政への市民参加 / 前回比較



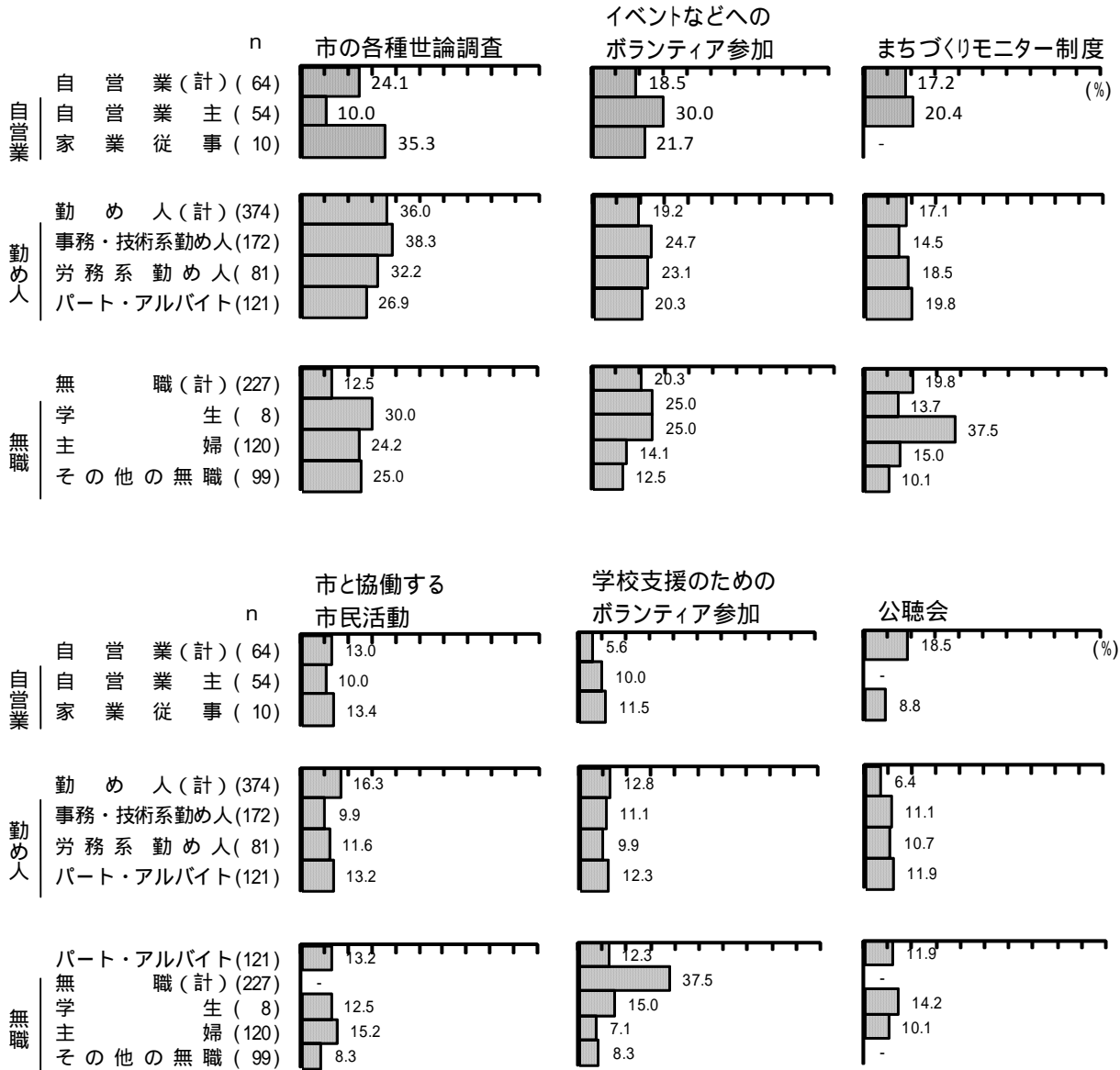
上位6項目について性別で見ると、「市と協働する市民活動」で男性全体(17.4%)が女性全体(9.6%)よりやや高い割合を示す。性・年代別では、「市の各種世論調査」で女性の40代(45.3%)が4割半ばとなっている。(図表14-3)

<図表14-3> 市政への市民参加/性別、性・年代別(上位6項目)



上位6項目についての回答を、職業別にみると「市の各種世論調査」では、勤め人(計)(36.0%)が、自営(計)(24.1%)、無職(計)(12.5%)より若干高い割合を示す。

<図表14-4> 市政への市民参加/職業別(上位6項目)

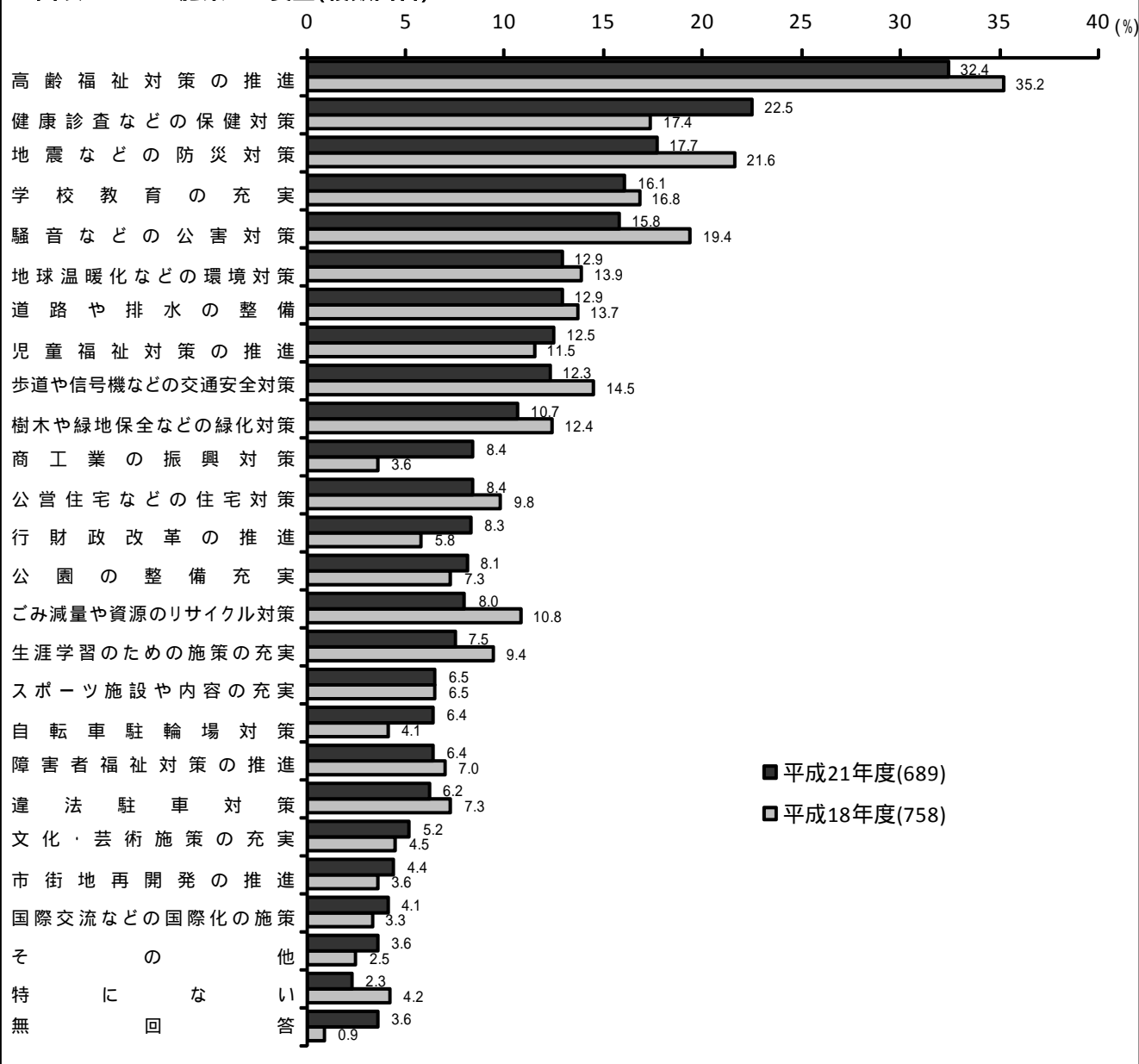


(2) 施策への要望

「高齢福祉対策の推進」が約3割

問41 これからの市政に対して、あなたが特に力を入れて欲しいことがありましたら、次の中から3つまで選んでください。

<図表14-5> 施策への要望(複数回答)

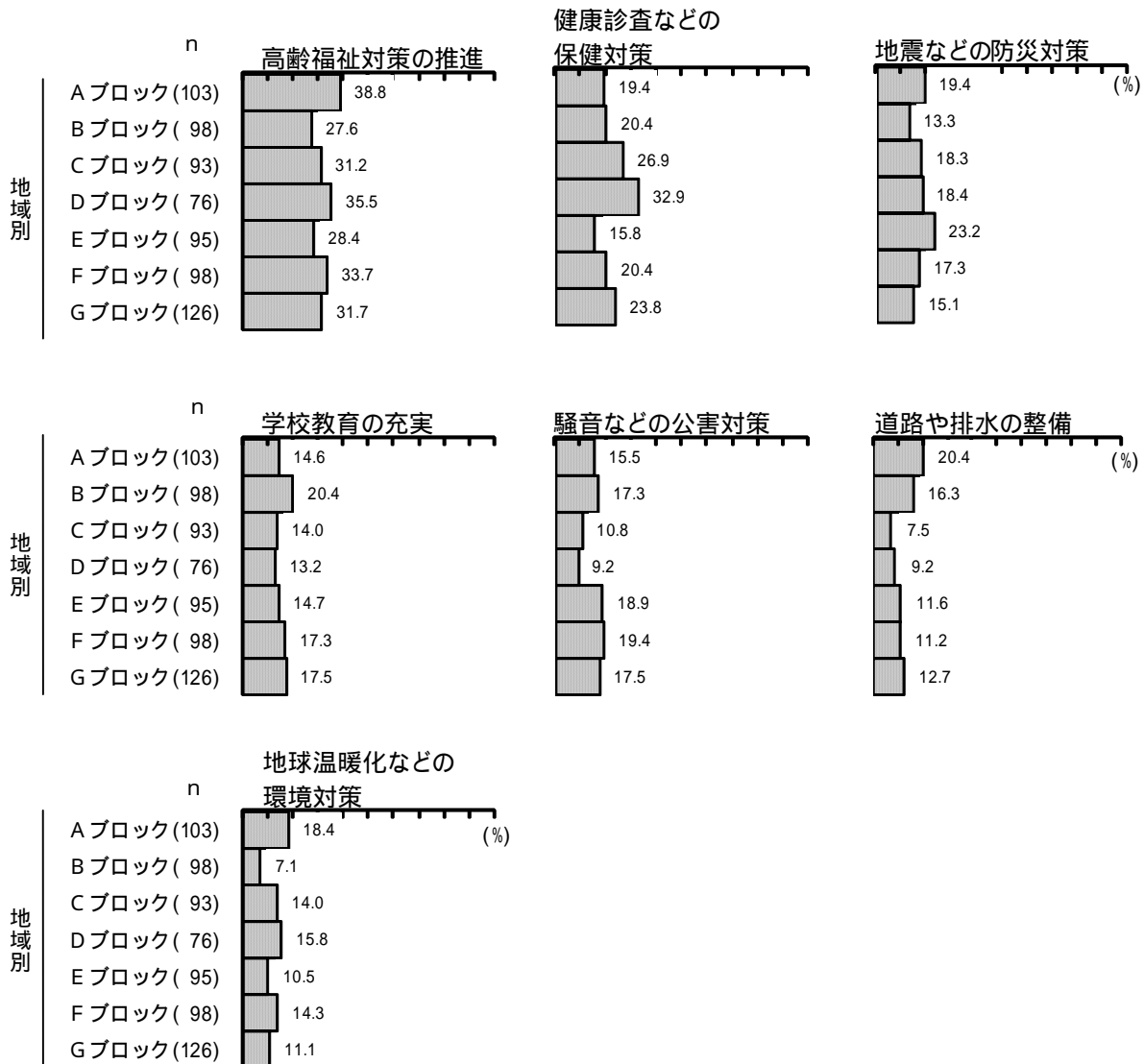


これからの施策への要望を尋ねたところ、「高齢福祉対策の推進」(32.4%)の割合が最も高く、約3割となっている。「健康診査などの保健対策」(22.5%)で約2割、以下、「地震などの防災対策」(17.7%)、「学校教育の充実」(16.1%)、「騒音などの公害対策」(15.8%)、「地球温暖化などの環境対策」(12.9%)、「道路や排水の整備」(12.9%)、「児童福祉対策の推進」(12.5%)、「歩道や信号機等の交通安全対策」(12.3%)、「樹木や緑地保全等の緑化対策」(10.7%)と続いている。(図表14-5)

前回調査の結果と比較すると、「高齢福祉対策の推進」が今回(32.4%)、前回(35.2%)ともに3割を超えて最も高い割合となっている。「健康診査などの保健対策」は今回(22.5%)が前回(17.7%)よりやや高い割合を示す。「地震等の防災対策」、「騒音などの公害対策」は前回調査より若干割合が減少した。「商工業の振興対策」(8.4%)は前回(3.6%)から約5ポイント上昇している。(図表14-5)

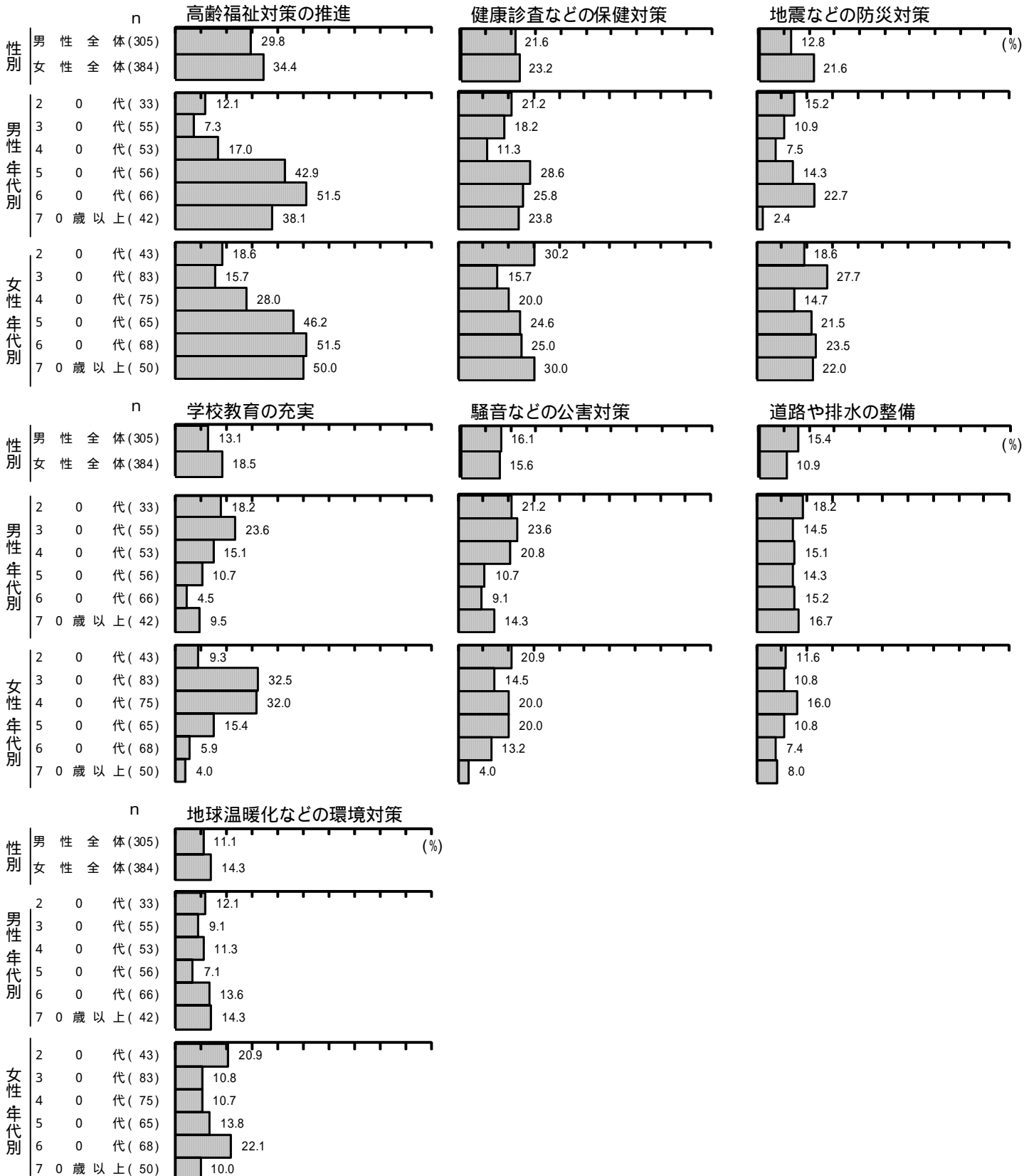
上位6項目(「道路や排水の整備」、「地球温暖化などの環境対策」は同率であったため表示は7項目)について、地域別にみると、「高齢福祉対策の推進」はAブロック(38.8%)で約4割と他のエリアより若干高い割合を示し、Bブロック(27.6%)、Cブロック(31.2%)では3割弱とやや低い割合となっている。「健康診査等の保健対策」はDブロック(32.9%)で他のエリアよりやや高い割合を示す。「騒音などの公害対策」と「道路や排水の整備」では、Cブロック、Dブロックでその他のエリアより5ポイント程度低い割合を示す。(図表14-6)

<図表14-6> 施策への要望/地域別(上位6項目)



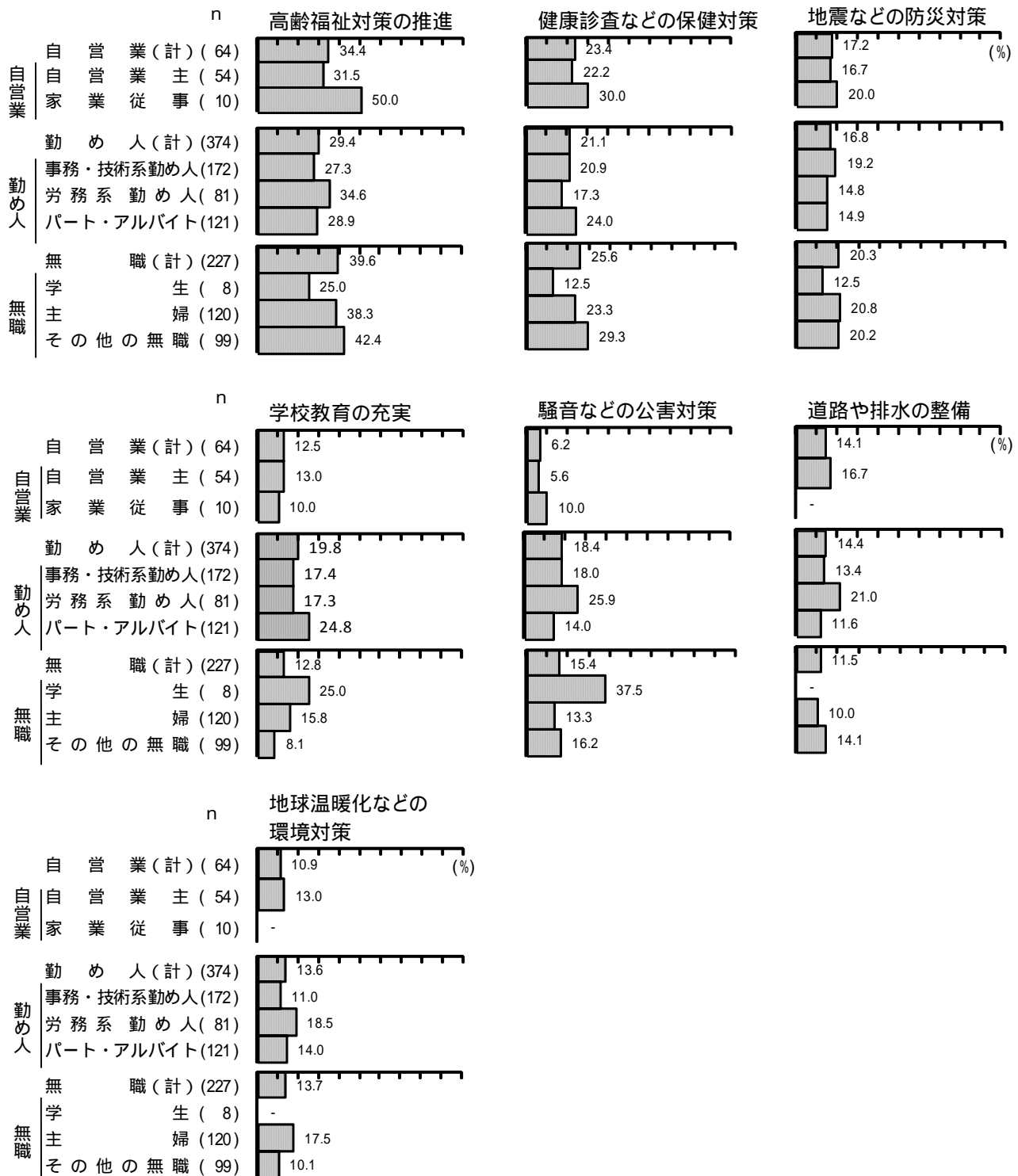
上位6項目を性別にみると、「地震などの防災対策」では男性より女性の方がやや高い割合を示す。性・年代別では、「高齢福祉対策の推進」の割合は、男女ともに年代が上がるにしたがい高くなる傾向がみられ、特に男性の60代(51.5%)、女性の60代(51.5%)、女性の70歳以上(50.0%)では約半数となっている。また、「学校教育の充実」は女性の30代(32.5%)、女性の40代(32.0%)が3割を超え、他の性・年代よりやや高い割合を示す。(図表14-7)

<図表14-7> 施策への要望/性別、性・年代別(上位6項目)



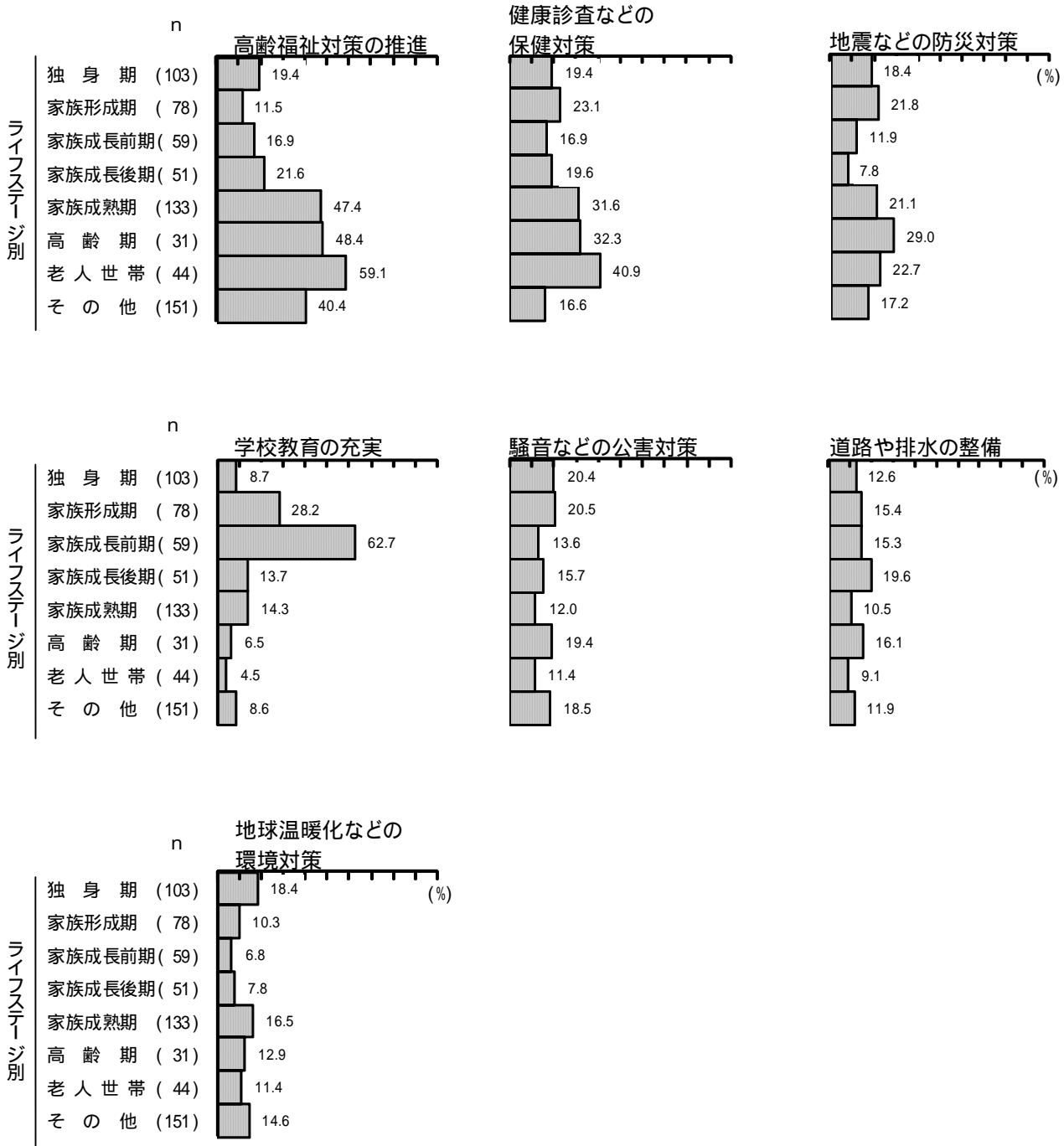
上位6項目を職業別にみると、「高齢者福祉対策の推進」は無職(計)(39.6%)で約4割となっている。(図表14-8)

<図表14-8> 施策への要望/職業別(上位6項目)



上位6項目をライフステージ別で見ると、「高齢福祉対策の推進」では老人世帯(59.1%)で約6割、「学校教育の充実」では家族成長前期(62.7%)で6割を超えている。(図表14-9)

<図表14-9> 施策への要望/ライフステージ別(上位6項目)

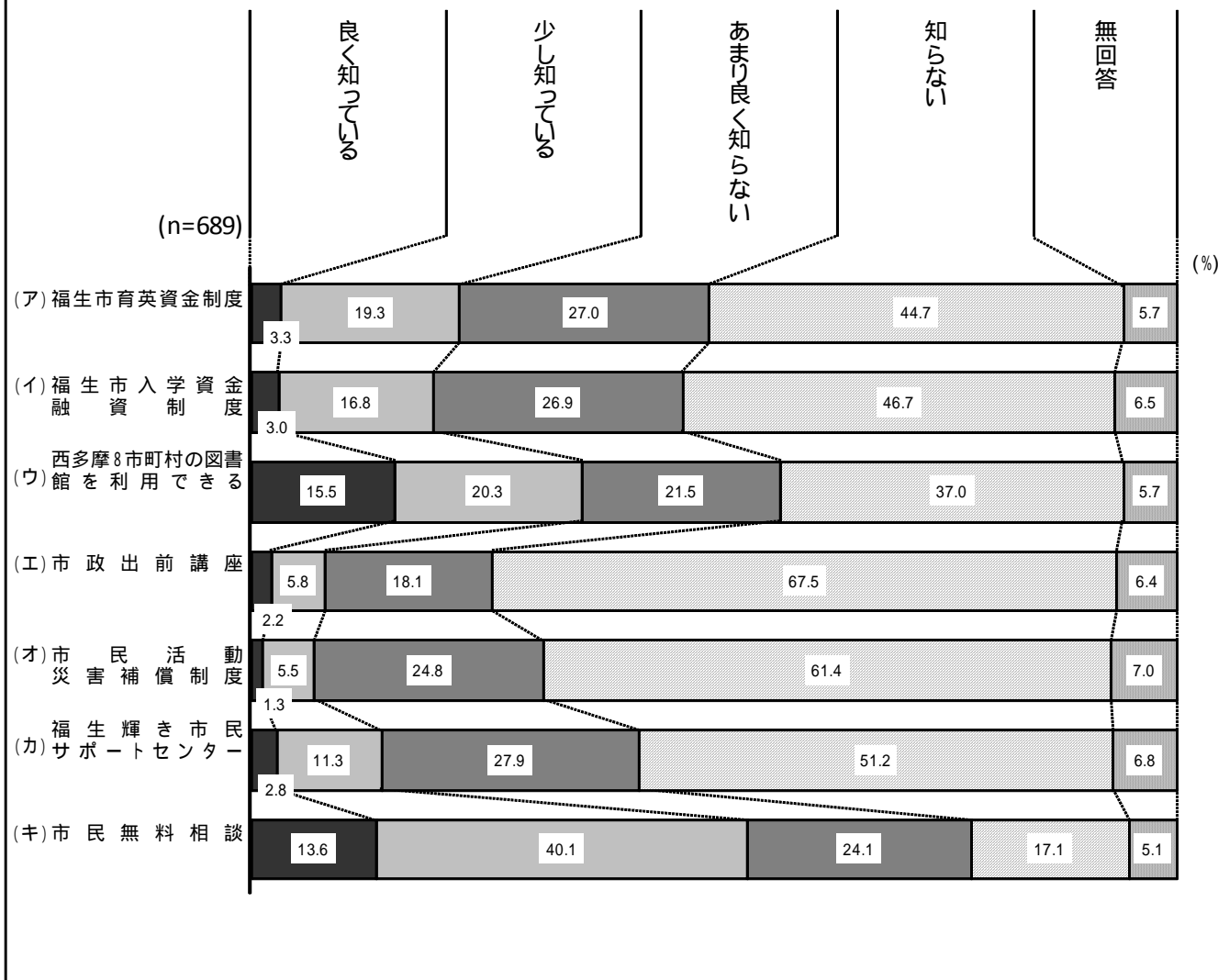


(3) 施策の認知状況

『市民無料相談』で「良く知っている」、「少し知っている」を合わせた【知っている】が約半数

問42 あなたは次の市の施策についてご存知ですか。下の表の(ア)から(キ)の項目について、それぞれ1つずつ選んで下の表の番号にをつけてください。

< 図表 14 - 10 > 施策の認知度

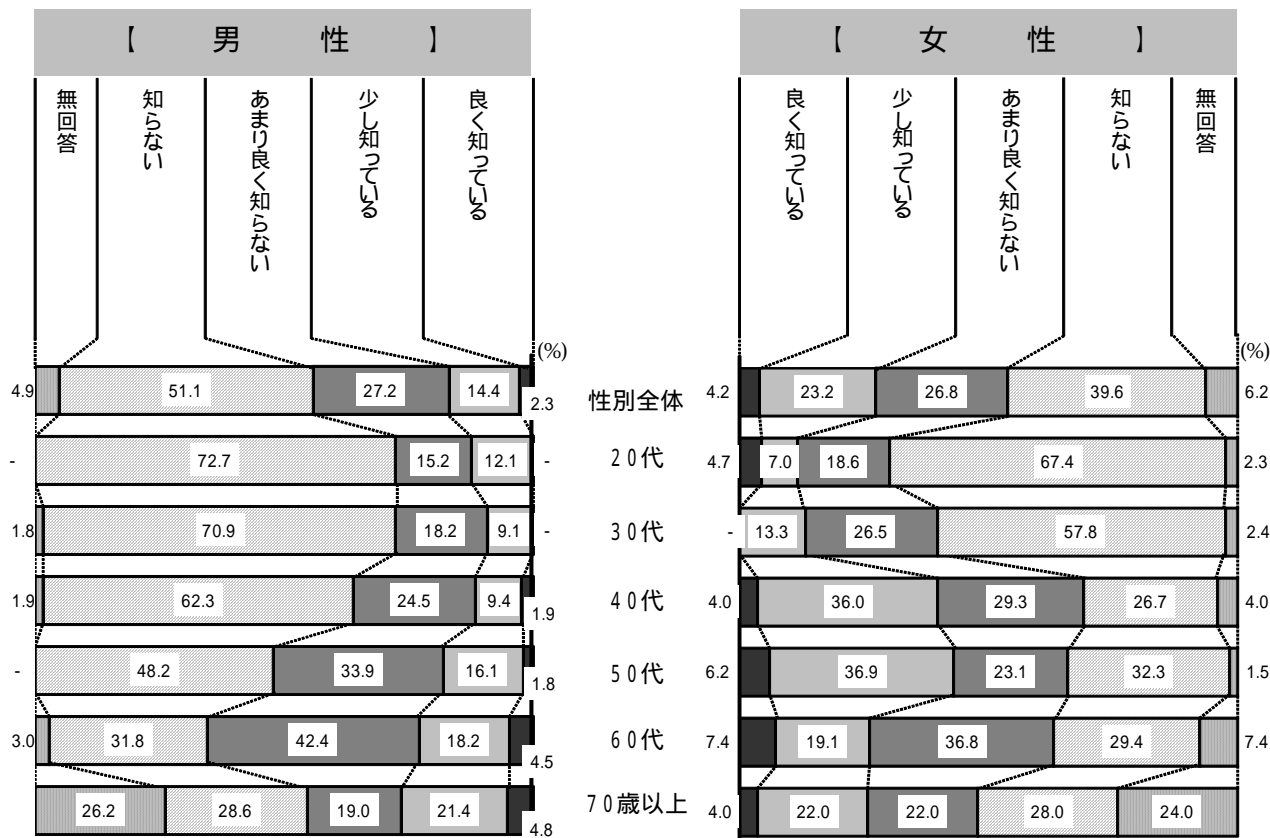


施策の認知状況について尋ねたところ、「良く知っている」と「少し知っている」を合わせた【知っている】は、『市民無料相談』(53.7%)で一番割合が高く、約半数となっている。以下、『西多摩8市町村の図書館を利用できる』(35.8%)、『福生市育英資金制度』(22.6%)、『福生市入学資金融資制度』(19.8%)、『福生輝き市民サポートセンター』(14.1%)、『市政出前講座』(8.0%)、『市民活動災害補償制度』(6.8%)の順となっている。「良く知っている」の割合が高かったものは『西多摩8市町村の図書館を利用できる』(15.5%)、『市民無料相談』(13.6%)で1割半ば、「知らない」の割合は『市政出前講座』(67.5%)、『市民活動災害補償制度』(61.4%)、『福生輝き市民サポートセンター』(51.2%)で半数を超えている。(図表14-10)

(ア) 福生市育英資金制度

性別でみると、【知っている】は男性全体（16.7%）より女性全体（27.4%）が1割ほど高い割合を示す。性・年代別でみると、【知っている】は女性の40代（43.1%）、女性の50代（43.1%）で4割を超え、他の年代より高い割合を示す。【知らない】は男女ともに20代・30代で8割半ばとなっている。（図表14-11）

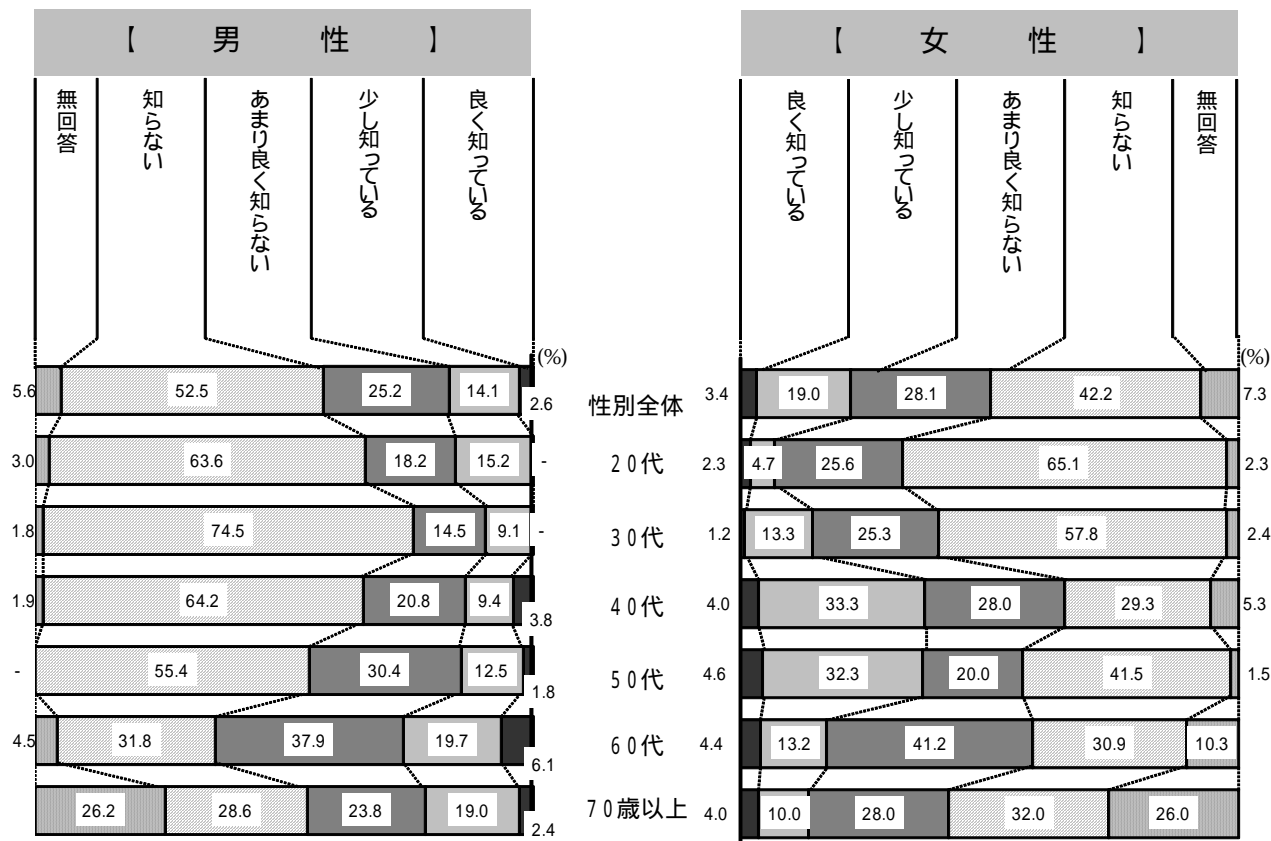
<図表14-11> 福生市育英資金制度の認知度 / 性別、性・年代別



(イ) 福生市入学資金融資制度

性別でみると、【知らない】は男性全体（77.7%）より女性全体（70.3%）が1割弱高い割合を示す。性・年代別でみると、【知っている】は女性の40代（37.3%）、女性の50代（36.9%）で3割後半となり、他の年代より高い割合を示す。【知らない】は女性の20代（90.7%）で9割を超え、男性の30代（89.0%）でも約9割となっている。（図表14-12）

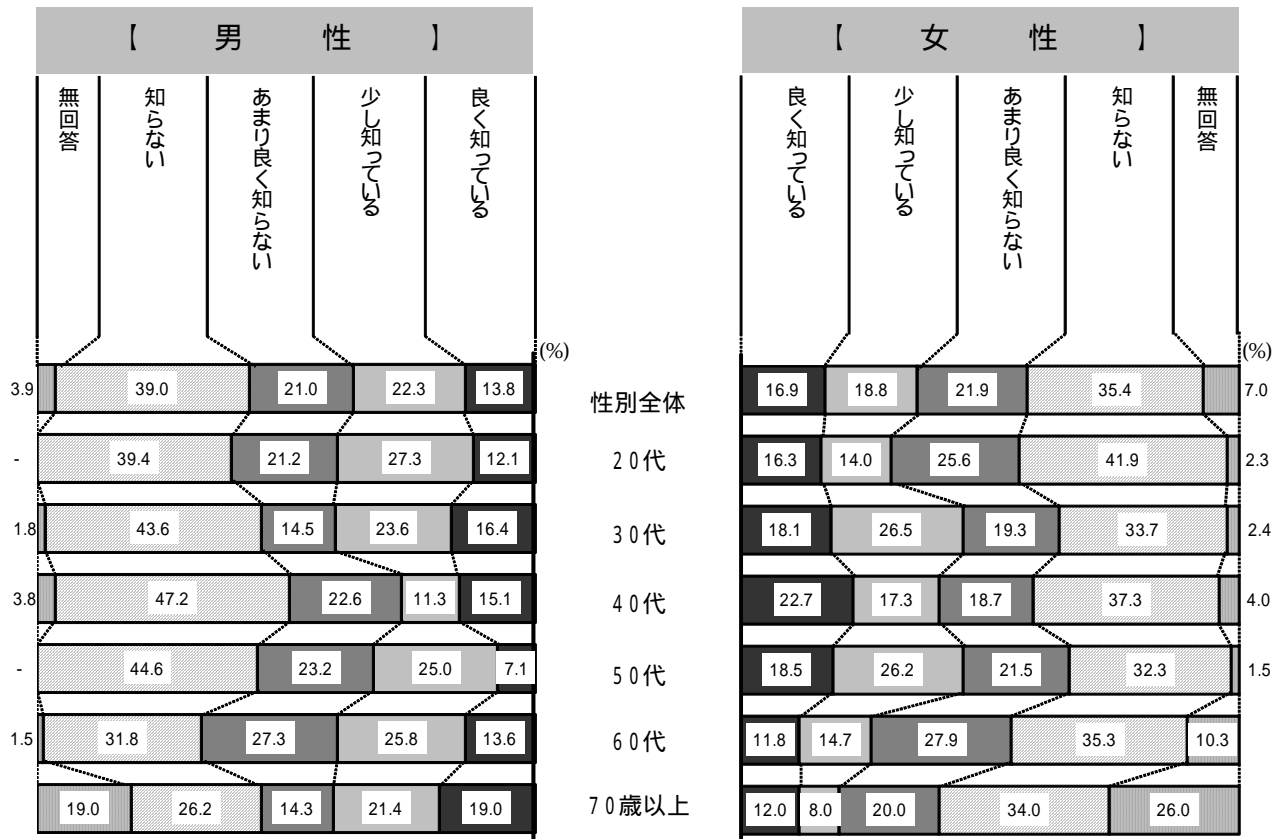
<図表14-12> 福生市入学資金融資制度の認知度 / 性別、性・年代別



(ウ) 西多摩8市町村の図書館を利用できる

性別でみると、男女間の差異はあまりみられない。性・年代別でみると、【知っている】は40代、50代で男性より女性の方が高い割合を示し、60代、70代では男性が女性より高い割合を示す。【知っている】は男性の20代(39.4%)、30代(40.0%)、70代(40.4%)が4割程度となり、女性では30代(44.6%)、40代(40.0%)、50台(44.7%)で約4割となっている。(図表14-13)

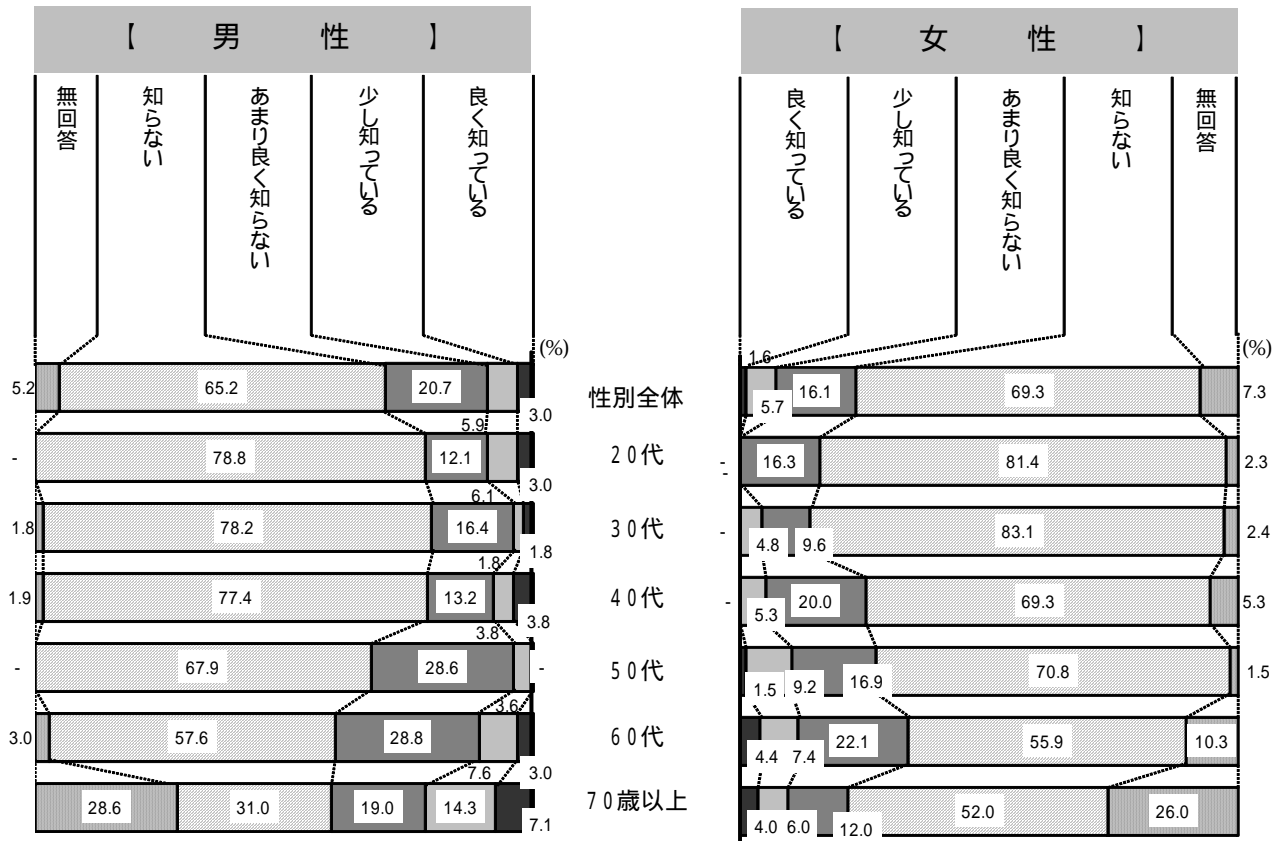
<図表14-13> 西多摩8市町村の図書館を利用できる / 性別、性・年代別



(エ) 市政出前講座

性別で見ると、男女間の差異はあまりみられない。性・年代別で見ると、【知っている】は男性の70代(21.4%)が最も割合が高くなっている。全体として【知らない】の割合が高く、特に女性の20代は、【知っている】の回答がなかった。(図表14-14)

<図表14-14> 市政出前講座 / 性別、性・年代別

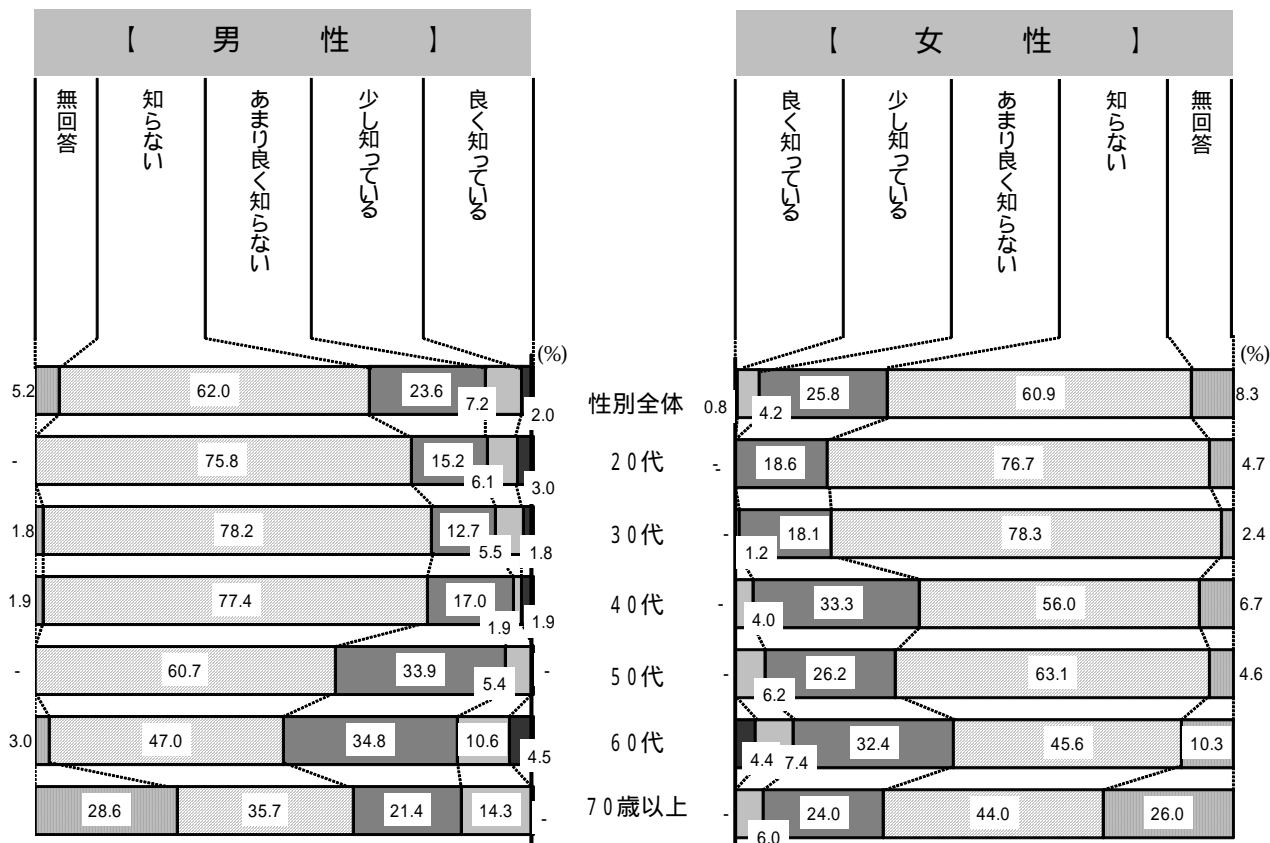


(オ) 市民活動災害補償制度

性別でみると、男女間の差異はあまりみられない。性・年代別でみると、【知っている】は男性の60代(15.1%)と70代(14.3%)、女性の60代(11.8%)で1割を超えている。全体として【知らない】の割合が高く、特に女性の20代(95.3%)は【知っている】という回答がみられなかった。

(図表14-15)

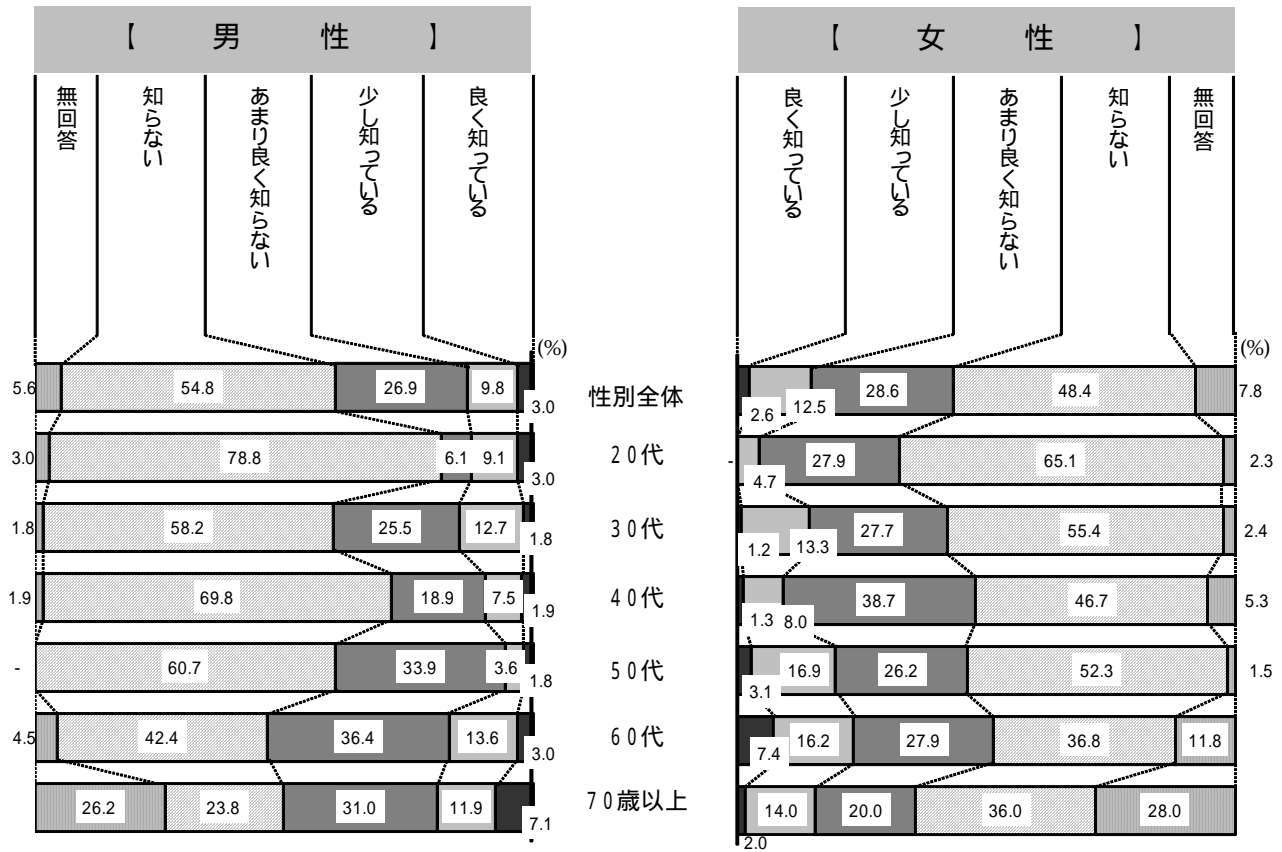
<図表14-15> 市民活動災害補償制度 / 性別、性・年代別



(カ) 福生輝き市民サポートセンター

性別でみると、男女間の差異はあまりみられない。性・年代別でみると、【知っている】は男性の70代(19.0%)が最も割合が高くなっている。全体として【知らない】の割合が高く、特に女性の20代は、「良く知っている」の回答がなかった。(図表14-16)

<図表14-16> 福生輝き市民サポートセンターノ性別、性・年代別



(キ) 市民無料相談

性別でみると、【知っている】男性全体(45.5%)より女性全体(60.2%)で1割以上高い割合を示す。性・年代別でみると、【知っている】は女性の50代(75.4%)が一番割合が高く、女性の60代(70.6%)とともに約7割、女性の40代(66.7%)でも6割半ばとなっている。男女ともに20代(男性36.4%、女性25.6%)が他の年代に比べて【知っている】の割合が低く、男性は30代(36.3%)も【知っている】の割合が3割代となっている。(図表14-17)

<図表14-17> 市民無料相談 / 性別、性・年代別

